

No.2365

院長訪問

北海道立向陽ヶ丘病院

高信 径介 院長



4月に着任し、ICT技術、新たな治療の導入に力を入れる。高齢化と人口減少が著しい地域で、先進的な取り組みの持つ意義は大きい。限られた医療資源を最大限発揮できるように一歩ずつ前進し、地域の精神科医療を支えたい。北海道大学2011年卒。専門は、重大な他害行為を行った精神障害者への医療提供を定めた医療観察法や刑事精神鑑定などの司法精神医学と、自殺予防、道内初の医療観察法指定入院医療機関として22年に開設された北大病院附属司法精神医療センターで、設立当初から副センター長を務め、患者の病状改善と社会復帰に取り組んできた。医療機関への早期アクセスと介入で予防できた自傷他害行為の事例を多く見てきた経

先進的な取り組みで 地域精神科医療を支える

「長期の入院生活を送るしかなかったり、ベッド上で患者は自発的な行動が難しく、過す時間が長くなった」

札幌市中央区のさっぽろ銀杏会記念病院(川西譲理理事長、平山敦院長・120床)は、生活リハビリテーションの一端で入院患者が切り絵に取り組んでいる。細かい手の動きの維持・向上など、作業療法としての効果に加え、作業自体の楽しさ、役割が与えられることによる、やりがい創出で患者が前向きになり、リハビリに取り組むようになるなど、意識の転換につながっている。

(工藤海斗)

Hospital & Clinic



心理的安全性確保に努めている

札幌市豊平区の脳神経内科は、新入職員の内科が「オンボーディング」を導入。組織を育む意識に変化

脳神経内科は、新入職員の内科が「オンボーディング」を導入。組織を育む意識に変化

生活リハの一環で切り絵 やりがい創出でリハビリ前向きに



「長期の入院生活を送るしかなかったり、ベッド上で患者は自発的な行動が難しく、過す時間が長くなった」

札幌市中央区のさっぽろ銀杏会記念病院(川西譲理理事長、平山敦院長・120床)は、生活リハビリテーションの一端で入院患者が切り絵に取り組んでいる。細かい手の動きの維持・向上など、作業療法としての効果に加え、作業自体の楽しさ、役割が与えられることによる、やりがい創出で患者が前向きになり、リハビリに取り組むようになるなど、意識の転換につながっている。

(工藤海斗)

「長期の入院生活を送るしかなかったり、ベッド上で患者は自発的な行動が難しく、過す時間が長くなった」

札幌市中央区のさっぽろ銀杏会記念病院(川西譲理理事長、平山敦院長・120床)は、生活リハビリテーションの一端で入院患者が切り絵に取り組んでいる。細かい手の動きの維持・向上など、作業療法としての効果に加え、作業自体の楽しさ、役割が与えられることによる、やりがい創出で患者が前向きになり、リハビリに取り組むようになるなど、意識の転換につながっている。

(工藤海斗)

放射線装置更新 CFを10月開始

札幌市白石区の札幌北病院(永山元博理事長、目黒一院長・60床)は、老朽化が進む放射線治療装置リニアックの更新費用の一部を募るクラウドファンディングを、10月から実施する。目標金額は750万円。同病院内のクラウドファンディング実施は初めて。現行リニアックは導入から22年が経過し、2004〜25年度までの延べ治療件数は2496件に上る。

血液疾患の造血幹細胞移植の前処置として行う「高線量放射線治療(BT)」にも力を投入しており、直近5年間に同病院内で実施した放射線治療患者数は約37%増加。BTが占める。全道の年平均BT実施件数は185件、3分の1強に当たる42・6件を同病院内で担当している。装置更新にかかる総事業費は5億円を超える見込み。全国的に施設整備が難しく、増やす中、

旭川肝胆膵外科学会認定施設に

旭川市旭川厚生病院(光部兼六郎院長・406床)は、日本肝胆膵外科学会「高度技術専門医研修施設」の新規認定を受けた。導入施設は、肝・胆・膵の手術は豊富な知識や経験に加え、解剖的な裏やがんの進行度など、患者の状態に応じた適切な判断や対応が求められる。こうした研修施設として認定を受ける。旭川市旭川厚生病院(光部兼六郎院長・406床)は、日本肝胆膵外科学会「高度技術専門医研修施設」の新規認定を受けた。導入施設は、肝・胆・膵の手術は豊富な知識や経験に加え、解剖的な裏やがんの進行度など、患者の状態に応じた適切な判断や対応が求められる。こうした研修施設として認定を受ける。

道民の健康と医療をささえる医薬品卸

今日のAI音声認識

話すだけでカルテ完成。

「今日のAI音声認識」は、診察中の会話をリアルタイムで認識。AIがカルテ下書きを自動作成するAI音声入力アプリです。

今日の問診票

「今日の問診票」は、医療現場の働き方改革を実現します

「今日の問診票」は、著名医師2000名と一緒に作成した、医療従事者の業務負担軽減を実現するWEB問診システムです。

MOROO

株式会社モロオと株式会社プレジションは共同で、北海道内の医療機関様へ向けたソリューションの活用提案をしています。

011-618-2410

資料のダウンロードは右記のQRコードから

地域の健康ネットワークを支え、流通のあすを創造します

北の「元気」を支えるチカラ

未来に挑戦し活力ある企業。地域に生きる一人ひとりの「健康」「元気」を支える力。トータルヘルスケアのパートナーとして、これまでも、これからも。

ほくやくは、総合ヘルスケア企業グループ「株式会社ほくやく・竹山ホールディングス」の一員として、安全で安定した医薬品供給体制の構築はもちろん、地域のみなさまの健康にかかわる全てに貢献する企業を目指して、企業理念である「地域の健康ネットワークを支え、流通のあすを創造します」を実現してまいります。

本社／060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5
Tel 011-611-0989代 Fax 011-631-5121
https://www.hokuyaku.co.jp/

HOKUYAKU 株式会社ほくやく